



作品名:「古城」(第10回沖縄ねりんピックかりゆし美術展 洋画の部 奨励賞) 作成者:富川 盛光さん(宜野湾市)

目次

- ② 特集「令和元年度 社会福祉振興基金・団体活動紹介」
- ④ THANKS(サンクス)運動関連記事 「八重瀬町富盛地区の取り組み」 他
- ⑥ シリーズ記事「ふくし&OO」第1回～ふくし&鍼灸整骨院～ 他
- ⑦ 福祉の職場見学ツアー、ソウェルクラブご加入のおすすめ
- ⑧ 地域生活定着支援事業連絡会議の報告、日常生活自立支援事業～事業担当者研修会～の報告
- ⑨ 県災害派遣福祉チームの創設に向けて 他
- ⑩ 赤い羽根共同募金運動がスタートしました 他
- ⑫ インフォメーション、寄付者芳名、表紙の絵 他

広報紙「福祉情報おきなわ」の
作成経費の一部に共同募金配分金を
充てております。

“想いを”かたち“に”

医療支援、防災、障がい者スポーツ普及活動を通じて福祉のまちづくり

沖縄県社会福祉協議会では、民間福祉活動に取り組み団体を対象に、「社会福祉振興基金」を活用した助成事業を行っています（今年度は、35団体・64事業へ助成）。

本号では、当該助成金を活用して、「医療支援」「防災・減災」「障がい者スポーツの普及」活動に取り組む3団体について紹介します。

認定NPO法人
こども医療支援わらびの会

「病院ボランティア養成 及び勉強会開催」事業

「医師以外でも、看護師・保育士・栄養士・ボランティア等と一緒に子どもたち、その家族を支えることが大切」と医療支援への想いを語る儀間小夜子さん。

儀間さんが事務局長を務める『認定NPO法人こども医療支援わらびの会（真栄田篤彦理事長：以下「わらびの会」という）』は、南風原町新川の『ファミリーハウスがじゅまるの家』内にあります。がじゅまるの家は、わらびの会が受託運営する、離島等遠方から治療・入院する病児とその家族が滞在できる施設です。



▲病院ボランティア養成講座

わらびの会の歴史について

わらびの会の始まりは、県内初の「こども病院」の設立に向けた署名運動に遡ります。平成8年当時、県内の心臓病等重度の病を抱える子どもとその家族は、治療を求めて県外へ行くことが必要でした。「県内でも治療を受けられる環境を」という保護者の思いか

ら署名運動が始まり、平成18年には、念願である県内で初めての子ども病院「県立南部医療センター・こども医療センター（以下「こども医療センター」という）」が開院されました。それを機に、これまで署名運動を推進してきた「母子総合医療センター設立推進協議会」が発展・

解消され、病児が安心して治療に専念できるよう「病児とその家族の支援」を目的にわらびの会が設立されました。現在、わらびの会では、『病院ボランティアの養成』、『がじゅまるの家』運営、『ピアサポート活動』の3つの柱で子ども医療の支援に取り組んでいます。

本会から助成を行っている「病院ボランティア養成及び勉強会開催事業」に焦点を当て、さらにお話を伺いました。

病院ボランティアについて

「病院ボランティア」は、病院の外来で病児の兄弟を預かったり、病棟で入院している病児の遊び相手となったり、クリスマス会などのイベント手伝い等、多岐にわたる活動を行っています。現在、子ども

医療センターと琉球大学病院の2か所で、157名のボランティアが活動しています（2019年7月現在）。

わらびの会では、病院ボランティアの養成を目的に「病院ボランティア養成講座（以下、「講座」という）」を年2回開催しています。講座では、病院ボランティアに必要な知識等を座学やグループ討議、現場実習（ボランティア活動）等において学びます。「講座開設当初は、様々な情報を収集して、試行錯誤しながらカリキュラムを作り出した」と儀間事務局長は、当時の状況を話します。

講座終了後、実際に活動するためには、健康診断、抗体検査や予防接種等が必要であり、それらに係る費用はボランティアの自己負担となるため、活動の前の一つのハードルとなっています。

儀間事務局長、職員の間川牧子さんとともに「イベント等のボランティアだけでなく、病院外来、病棟における継続した活動をできるボランティアの確保が課題」と言います。そのためにも、継続したボ

ランティアの養成に加え、病院でのボランティアの受け入れ体制を整えていくことも大切です。

わらびの会では、これらの課題に丁寧に取り組みながら、ボランティアが活動しやすい環境づくりに力を入れ、小児科がある県内すべての病院でボランティアが活動している状況を目指し、活動を続けます。



▲ボランティア活動・夏祭りでのコマ

沖縄県車椅子陸上クラブ
ターゲットズ

「大分国際車いす マラソン大会」事業

設立31年目を迎える「沖縄県車椅子陸上クラブターゲットズ（荻堂盛助会長：以下「クラブターゲットズ」という）」は、会員、サポーターを含め21名（9月現

在)で活動しています。自主練習のほか、宜野湾市、沖縄市を中心に、月に一回、陸上競技の合同練習に励んでいます。

クラブチームの誕生について

きっかけは1987年、沖縄で開催された『全国身体障害者スポーツ大会』。車いすによる陸上競技を初めて目の当たりにし、荻堂盛助会長は「とても感動した」と言います。それを機に、「私たちも車椅子スポーツができないか」という思いから、クラブチームの誕生しました。

クラブチームの活動について

現在では、県内外のマラソン大会や選手権大会に参加し、競技の向上だけでなく、全国の車いすアスリートとの交流・親睦を深めています。



▲大分国際車いすマラソン大会の様子

チームの一員である上与原寛和選手は、2008年パラリンピック北京大会において、フルマラソンで県内初の銀メダルを獲得し、沖縄県民栄誉賞を受賞しました。また、ロンドン大会、リオデジャネイロ大会にも出場しており、今年の世界陸上では2種目で銅メダルを獲得。現在は、2020年の東京大会に向けた練習に励んでいます。



▲上与原寛和選手

また、クラブチームでは、県内の養護学校や障害者施設におけるジュニア選手の指導、講演等を通じた福祉教育等、次世代の育成にも力を入れています。

今後も競技力の向上を目指して県内外の様々な大会に参加するとともに、後進の指導・育成の活動も続けていくと荻堂会長は抱負を語ります。

NPO法人防災サポート沖縄

「災害時避難行動要配慮者・

災害時避難行動要支援者避難支援」事業

「災害時には、行政や消防、自衛隊などの公助をあててはいけません。自分の身は自分で守る自助、そして、近隣住民同士が助け合う共助が大切」そう語る長堂政美さん。

長堂さんが理事長を務める『NPO法人防災サポート沖縄(以下「防災サポート」という)』では、災害発生の恐れ、または災害発生時に、自主防災活動(避難誘導、初期消火、救命救助、避難所運営等)が展開できるように、自助・共助の向上を図る活動を行っています。

防災サポートは、沖縄市において、災害時における住民主導型の避難体制の確立に向け、行政と住民の垣根を超えた活動を行うために設立されました。

現在では、地域住民の代表であり、災害時に指揮を執る「防災リーダー」の育成に力を入れています。

助成金の活用について

防災サポートでは、避難誘導資器材『Jinriki』を購入し、自主防災組織で使用しています。災害時に、地域住民同士で自力避難が困難な方々を助けるために活用されています。

ハード面・ソフト面から地域防災力の強化・充実を図り、高齢者や障がいのある方も安全で住みよいまちづくりを進めています。

課題と今後の目標について

課題について尋ねると、「住民の防災意識に温度差があること」と長堂さんは話します。東日本大震災直後、住民の防災意識は一時高まったが、徐々に薄れてきており、訓練等に参加する住民も『やらされ感』があるという現状も否めないといいいます。

「行政はあくまで避難勧告や安否確認等の連絡程度の役割にとどまる。避難所の運営は住民が主体となって行わなくてはならない」と、長堂さんは繰り返し自助・共助の大切さを訴えます。

防災サポートは、助けられる方よりも助ける方が多く、災害に対して万全な体制がとれる地域を目指し、今後も活動を続けます。



▲避難誘導資器材『Jinriki』を用いた避難訓練の様子

今回、取材した皆さんのお話からは、活動において、他機関・団体との連携を大切にしていることが伝わりました。また、次世代の育成にも力を入れ、活動を『つないでいく』ことを意識されていることが窺えました。

本会では、今後も助成等を通じて、社会福祉活動に取り組む団体を支援し、誰もが安心、安全に、そして輝ける社会づくりを推進します。



▲活動の様子

同地区の保育園から園児の参加もあり異年齢交流も行われ、普段よりも一段と賑やかになりました。

この活動は、県社協から町社協がモデル指定を受けている「社会的孤立対策モデル事業」の一環として地域ボランティアが主体となって実施しています。夏休み期間中に、月曜日は学習支援、金曜日には昔遊びが行われ、今年で2年目になります。

八重瀬町富盛地区では、学習支援や昔遊びを通して仲間作りを目的とした「夏休み子どもたちの居場所づくり」が行われました。

● 八重瀬町富盛地区の取り組み

「地域の人々が明るいネットワークを築き支え合う社会」を合言葉にはじまったサンクス運動。地域社会が変動する中、支え合う社会を築く多様な活動が行われています。サンクス運動関連記事では、そんな活動に活躍する団体や人物を紹介します。

方々は地域愛に溢れています。地域と保育園が密接に関わって活動できる場所がいいですね」と話されました。他市から同地区へ移住してきたという住民からは「引越した当初は、地域に馴染めるか心配でした。しかし、地域愛が素晴らしい地区なので、安心して暮らすことができています」との話がありました。野原規子主任児童委員は「ボランティア活動をしていく中で、子ども達からエネルギーを貰えています。子ども達に寄り添い、一緒に遊ぶことを心がけています」と語りました。この日、町社協から見守りの協力があり、参加した職員からは「今後も同地区の活動が継続できるように支援していきます。また、学校教育との連携にも繋がっていきたいです」との話がありました。閉会式では、新里清文区長から「この活動を通して、学校では味わえない体験ができれば嬉しく思います。」

夏休みが終わっても、体験した昔遊び等を思い出して楽しんで欲しいです」と子ども達へメッセージが送られました。

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

平成31年度

ボランティア活動保険

全国200万人
加入!!

保険金額

保険金の種類		プラン	Aプラン	Bプラン	
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円	1,400万円	
	後遺障害保険金		1,040万円 (限度額)	1,400万円 (限度額)	
	入院保険金日額		6,500円	10,000円	
	手術 保険金	入院中の手術		65,000円	100,000円
		外来の手術		32,500円	50,000円
	通院保険金日額		4,000円	6,000円	
	特定感染症の補償		上記後遺障害、入院、通院の各補償金額(保険金額)に同じ		
賠償責任	葬祭費用保険金 (特定感染症)		300万円(限度額)		
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)		5億円(限度額)		

年間保険料 (1名あたり)

タイプ	プラン	Aプラン	Bプラン
基本タイプ		350円	510円
天災タイプ(※) (基本タイプ+地震・噴火・津波)		500円	710円

団体割引20%適用済/過去の損害率による割増引適用

<http://www.fukushihoken.co.jp>

ふくしの保険

検索

(※)天災タイプでは、天災(地震、噴火または津波)に起因する被保険者自身のケガを補償しますが(天災危険担保特約条項)、賠償責任の補償については、天災に起因する場合は対象になりません。

保険金をお支払いする主な例



ボランティア行事用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償

(傷害保険)

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ ●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事〉 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL:03(3349)5137
受付時間:平日の9:00~17:00(土・祝日、12/31~1/3を除きます。)

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763
営業時間:平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)
この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

「いいだ」子ども食堂（浦添市）

うらそえぐすく児童センター内で活動する「いいだ」子ども食堂は、毎週土曜日10時から14時まで、来館する児童・生徒へ食事の提供や学習支援を主に行っています。

代表の梁裕之（りょうひろゆき）氏は、PTA活動をしていく中で、ネグレクト（育児放棄）の実態があることを知ったそうです。それをきっかけに「何か手助けをできないか」と考え、PTA関係者等の協力を得て、子ども食堂を始めたそうです。

梁氏は、浦添市が開催する「地域子ども支援会議」にも参加し、教育関係者や市社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカーと、情報交換も行う等、地域や学校との連携にも力を入れています。

ボランティア活動者からは「子ども達だけでなく、保護者同士の情報交換や交流の場にもなっています」、「活動する前よりも地域の子ど

も達のことを意識できるようになりました」とのコメントがありました。

梁代表からは、活動の成果として「生活環境に課題を抱えた子が、高校進学し、日中の通学ができるようになった」、「問題行動があった子が地域との交流を通して、夢を持って生活できるようになった」と話がありました。

今後は、地域健全育成のため「場所としても機能するよう「地域の子供は地域で守り育てる」ことを目標に活動を続けていきたいと語られました。



▲食事の様子

「全ての子ども達が生まれた地域で 当たり前」に暮らせる社会を目指して

社会福祉法人袋中園 里親支援よしみずの取り組み

児童・障害児者施設を運営する社会福祉法人袋中園は、今年度から沖縄県の委託を受け、「里親リクルート・トレーニング事業」を開始しました。

本事業は、「里親制度」の認知度を高めるための普及・啓発や里親登録前の面談、委託後のアフターケア等を児童相談所と連携しながら進めていきます。

現在、沖縄県内には、疾病や経済的理由等により、実親から離れて生活しなければならぬ子どもが約500人存在します。

また、平成28年の改正児童福祉法では、子どもが権利の主体であることを位置づけ、家庭養育優先の原則が明記されました。

このような流れの中、「乳幼児の養育や保護者支援、里親へのつなぎ等、ソーシャルワークに取り組んできた乳児院としての経験や専門性

を活かし、子どもと里親を支援していけたら」という思いから、袋中園では「里親支援よしみず」を立ち上げ、職員2名体制で市町村や関係機関へ里親制度の周知広報に足を運んでいます。

「里親にはいくつか種類がありますが、この事業では主に養育里親の制度周知や登録支援に取り組んでいます。まずは、県民に養育里親を身近に感じていただきたい」と話すのは職員の岩本紗也佳さん。養育里親とは、家族と暮らせない子どもを家庭で養育する里親ですが、期間は長期だけでなく、数日から数か月程度の短期間のこともあります。

親から離れた生活しなければならぬ子ども達が、地域に一つの

養育里親家庭があることにより、生まれた地域を離れることなく、家庭的環境で育つことも選択できるようになります。

既に「よしみず」では、里親制度に関する質問等を電話やメールで対応しており、今後はショッピングセンター等でのイベントも企画しているとのこと。

「子どもを一番に考え、施設や里親等の選択肢が増えることが大切。今後は児童福祉施設や様々な里親支援機関が中心となり、民生委員児童委員、学校、自治会等とも繋がりがながら、地域で子どもや里親家庭を支える仕組みを作りたい」と職員の宇根涼子さんは話されていました。



お問合せ：里親支援よしみず ☎098-994-5134

ふくし & ○○○

このコーナーでは、地域福祉を応援する様々な取り組みを紹介していきます！

第1回

ふくし & 鍼灸整骨院

読谷村喜名の閑静な住宅街にある「りこね鍼灸整骨院」が行う施術、そして「ふくし」との接点について、同院の諸留将人さんからお話をうかがいました。

「りこね鍼灸整骨院」が行う施術について教えてください。

諸留：「りこね鍼灸整骨院」は院長である私の弟、祥太と2人で昨年開院しました。

手治療法や鍼・お灸といった施術に加え、トラウマをケアし、日常生活の様々な場面でのパフォーマンスの向上を図る「心身統合ケア」を行っています。

「ふくし」との接点について

諸留：一昔前まで、日本の多くの村では、地域住民同士による灸（ヤイト）もしくは灸焼き（ヤイトヤキ）と呼ばれる行為が行われていました。それは、治療としてだけでなく、山や畑で仕事を終え、お互いの疲れを癒

すためにも行われていたそうです。加えて、その場は、地域住民の相互交流の場、集いの場としても機能していたと聞いています。

地域住民同士の支え合いという点では、「ふくし」と重なりますね。

諸留：「りこね」という言葉は、RECONNECT(再びつながる)という意味があります。来院される方の心と体が再びつながるだけでなく、鍼灸整骨院がもつ専門性を活かしつつ、地域住民同士がつながりを持てるような活動や場づくりを展開することができればと考えています。

以前は精神科病院や障害福祉サービス事業所でソーシャルワーカーとして勤めていた諸留将人さん。これからも専門性を活かして地域をつなげていく取り組みを期待しています。



▲諸留 将人さん
「りこね鍼灸整骨院」
TEL : 098-923-3220
HP : <https://www.reconnect.okinawa/>

第62回沖縄県社会福祉大会

T 地域の、H 人々が、A 明るい、N ネットワークを、

K 築き、S 支え合う社会を目指して

10月9日、沖縄コンベンションセンターにて、「第62回沖縄県社会福祉大会」(主催：県、県社協、県共募)が開催され、福祉関係者約1500人が参加しました。

【式典】

大会式典では、長年にわたり県内の社会福祉の発展に貢献された方々へ表彰が行われました。県知事表彰・感謝、大会長表彰・感謝など、総勢269人・3夫婦・23団体に表彰状・感謝状が授与されました。被表彰者を代表し、県知事表彰受賞の鎌田佐多子氏から謝辞がのべられ、県議会の新里米吉議長からの祝辞のあと、大会宣言が満場一致で採択されました。

【記念講演】

後半には、「県民一人ひとりが作る地域共生社会について」と題して、ルーテル学院大学学長の市川一宏氏による講演が行われました。

市川氏からは、今、日本社会が求めている「希望」と「絆」を再生し、地域共生社会を目指していくこと、そして互いに支え合い、生きていくことが大切な時期となっていることなどについて話がありました。



▲市川一宏氏による記念講演

大会宣言

今日の社会福祉をめぐるのは、就労状況や心身の状態、地域社会との関係性などさまざまな事情を背景とした生活困窮や虐待、社会的孤立などの複合的な課題が増加しており大きな社会問題となっています。

このような中、国及び地方公共団体においては、関係機関の連携による包括的な支援体制の構築、そして地域住民一人ひとりが支え合い、地域をともに創っていく「地域共生社会」の実現に向けた取り組みが進められています。

本県においても、地域の人々が明るいネットワークを築き、支え合う社会を目指す「THANKS(サンクス)運動」を展開しています。本運動のさらなる推進には、福祉関係団体、ボランティア、企業、行政等が互いに連携を図り、積極的に協働していくことが大切です。

本日、「明日への希望とともに、みんなの笑顔の花を咲かせよう」のスローガンのもと、県民誰もが、普段の暮らしの中で幸せが実感できる「沖縄らしい優しい社会」の構築に取り組む決意を新たにしました。

私たちは総力を結集し、ともに支え合い、誰もが安心して生活できる、住みよい地域社会の実現に向け行動することを誓い、ここに宣言します。

令和元年10月9日
第62回沖縄県社会福祉大会

▲大会宣言

福祉の職場見学ツアー

県社協・福祉人材研修センターでは「福祉の職場見学ツアー」を実施しています。

本事業では福祉業界未経験の求職者や求職者を支援する就労支援機関の相談員、高校の進路担当教員等、広く一般県民を対象とし、福祉施設にて利用者支援の様子や職場の雰囲気などを見学、現地職員との対話の場を設けることで、就職活動を後押しし、福祉・介護人材の確保を図っています。

今年度は全5回の実施予定となっており、7月(10名)、8月(18名)、9月(6名)に開催し、

7施設(高齢者福祉施設3か所、障害者福祉施設3か所、児童福祉施設1か所)を訪問し、参加者の福祉の職場に対する理解を深めました。

参加者アンケートでは「未経験・無資格では一人で施設見学をお願いすることができなかった」ので参加できて良かった「事業説明の中で、ケア方法のこだわり・モットー、就職後の教育に力を入れていることが分かり、不安の解消につながった」等の回答がありました。

また、参加者の中には一度参加したことがきっかけとな

り、福祉の仕事に対して更に興味を持ち、再度、ツアーに参加した方や、介護の仕事に進もうかと迷っている参加者の後押しとなり、他の施設での採用につながった方もいました。

※職場見学ツアー参加希望者や、職場見学ツアーを受け入れていただける施設を随時、募集しております。ご興味のある方は左記までお問い合わせください。

お問い合わせ先

沖縄県福祉人材研修センター

住所：那覇市首里石嶺町 4-373-1
 沖縄県総合福祉センター西棟
 TEL：098-882-5703
 FAX：098-886-8474
 mail：jinzai@okishakyo.or.jp



▲事業説明を受けている様子



▲就労支援の場面を見学している様子

ソウェルクラブ

(福利厚生センター)ご加入のおすすめ

新規会員募集中!

会員数 268,000人 /

職員の健康管理のために

- 生活習慣病予防健診費用助成
- 健康生活用品給付
- スポーツクラブ ●電話健康相談

職員の慶事のお祝いに

- 結婚お祝品贈呈 ●出産お祝品贈呈
- 入学お祝品贈呈
- 永年勤続記念品贈呈
- 長期勤続者退職慰労記念品贈呈

地域に密着した事業

- 会員交流事業(旅行・観劇・スポーツ大会等)
- 地域開発メニュー

職員の万が一の際に

- 会員の死亡弔慰金
- 会員の配偶者の死亡弔慰金
- 会員の入院・手術見舞金
- 災害見舞金

職員の余暇活用のために

- 指定保養所…休暇村、KKR、グリーンピア、ダイワロイヤルホテルズ
- 会員制リゾート施設…ラフォーレ倶楽部 セラヴィリゾート泉郷
- クラブ・サークル活動助成
- テーマパーク ●国内・海外旅行
- レンタカー ●カルチャースクール等

職員の資質向上のために

- 資格取得記念品贈呈 ●海外研修
- 広報講習会 ●接客講習会
- レク・リーダー養成講習会
- メンタルヘルス講習会
- OJTスキルアップ講習会
- デイズニアアカデミー
- コンプライアンス講習
- e-ラーニング
- Excel、Word、PowerPoint、コンプライアンス、メンタルヘルス

職員の生活サポートのために

- 住宅ローン ●特別資金ローン
- ソウェル団体生命保険・傷害保険
- 小売店、引越サービス、文具・消耗品、書籍等

各種情報提供

- 会員情報誌 ●ホームページ

加入要件

- ・契約対象者…社会福祉事業又は介護保険事業(※)を営業者
 - ・加入対象事業…社会福祉事業又は介護保険事業(※)
 - ・加入対象者…上記事業に従事する役員全員(非常勤職員含む)
- ※対象事業の詳細についてはお問い合わせください。

掛金

- ・第1種会員(常勤職員向け)……毎年度1万円
 - ・第2種会員(非常勤職員向け)……毎年度5千円
- ※非常勤職員が第1種に入会することもできます。
 ※第2種会員は、利用できるサービスが一部限定されます。

加入申し込み、お問い合わせは、フリーダイヤル

TEL ☎0120-292-711
 FAX ☎0120-292-722

http://www.sowel.or.jp/
 社会福祉法人 福利厚生センター
 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町1-3-1
 NBF小川町ビルディング



全国約75,000か所の施設を割引価格で利用できる

ソウェルクラブ「クラブオフ」

地域生活定着支援事業連絡会議報告

県社協・地域生活定着支援センターでは、8月21日、県総合福祉センターにおいて、「沖縄県地域生活定着支援事業連絡会議」を開催しました。

会議は、矯正施設を退所する高齢・障害受刑者の円滑な地域生活の移行に向けて、関係機関との連携促進を図ることを目的に開催するもので、行政・福祉、司法関係者等約45団体から62名が参加しました。

はじめに、本会よりセンターの事業概要等の報告を行いました。本県の特徴として、介護と障害者福祉制度の狭間にいる60代の支援をはじめ、知的障害、アルコール依存症や統合失調症等の精神疾患の支援が多い状況となっています。また、知的障害や精神疾患によって出所後の生活イメージが持てず、対象者の状況に応じた居住先の確保が課題となっています。

続いて、那覇保護観察所の生田美奈統括保護観察官より、「自立準備ホームの概要と現状について」と題して説明がなされました。本県の自立準備ホームの登録件数は22件（薬物等依存症回復

施設12件、障害・高齢施設8件、少年の受入可能な施設3件※重複有）となっていますが、設置地域や障害種別に偏りがあり、受入調整が困難な場合もあることから、関係者へ登録呼び掛けがありました。

次に、自立準備ホームを運営している琉球山法華経寺及び社会福祉法人宇堅福祉会から実践報告がありました。この中で、宇堅福祉会からは支援者と対象者が望む「自立」にギャップがある時、支援の組み立てが難しいとの課題が示されました。

その後の質疑応答では、対象者の受入に際して施設周辺住民へ周知する必要性や利用者同士が信頼関係を構築するための支援方法等の質問が出され、地域や関係機関との連携のあり方等について活発な意見交換が行われました。



▲自立準備ホーム職員報告

県社協としては、本会議で出された意見等を踏まえ、関係機関と連携を図りながら、自立準備ホームの登録拡大と支援ネットワーク拡充に向け各種の取り組みを進めていきます。

日常生活自立支援事業〈事業担当者研修会〉

県社協・福祉サービス利用支援センターでは、市町村社協の日常生活自立支援事業（以下「本事業」という）の担当職員を対象に、「事業担当者研修会」を8月20日県総合福祉センターにて開催し、59名が受講しました。

研修会では、今年度から全市町村型方式へ事業形態の見直しを行ったことから、参加者は事業推進のため必要とされる知識・技術等の学びを深めました。

研修会前半は、ゆいまゝる法律事務所寺田明弘弁護士から「社協が権利擁護に取組む意義」と題して、成年後見制度との関りから見える本事業の役割や地域の関係機関との連携の必要性等、社協として事業に取り組む意義について講義がありました。

後半では、社会福祉法人緑和会統括アドバイザー総務部長の宮里初美氏を講師に「アセスメント・プランニングの理解と実践」と題し、講演と演習が行われました。

演習では、うるま市社協の崎原奈菜専門員からの事例報告をもとに、各援助プロセスにおける専門員の支援内容についてグループ討議が行われました。宮里氏からは、利用者の意

向を踏まえた自立に向けたプランニングの必要性や、担当者一人で抱え込まず関係機関や社協間のネットワークを活かしながら業務を行うこと等の助言がありました。

参加者からは、「福祉の隙間を埋めるためにも社協が行う意義の重要性を認識できた」、「一連の援助プロセスを事例を通して演習することで、より実践に近い学びが得られた」等の感想が寄せられました。

県社協としても、今後も事業担当者の資質向上が図られるよう各種研修会の開催を行ってまいります。



▲事業担当者連絡会議

県災害派遣福祉 チームの創設に向けて

県社協では、災害時における要配慮者支援体制を確保し、避難生活に伴って生ずる二次被害の発生を防止することを目的として、県からの委託を受け沖縄県災害時福祉支援体制整備事業を実施しています。

このほど、そのキックオフ研修として県内社会福祉法人等の役員を対象に「DWA Tおきなわ」に関する研修を実施しました。講師は「福祉防災サポートオフィス未来」代表の栗原英文氏。今後本会では、県社会福祉法人経営者協議会を中心に、福祉関係者へ幅広くDWA Tおきなわチーム員への参加登録を呼びかけ、万が一の災害に備えた取り組みを推進して行く予定です。



▲研修の様子

生活福祉資金貸付事業担当職員研修会を開催

「精神障害を抱えている方やその世帯への支援について」

県社協では去る8月23日（金）、県総合福祉センターにおいて、「生活福祉資金貸付事業担当職員研修会」を開催し、55名が参加しました。

研修会では、本県の生活福祉資金の貸付及び償還の実績をはじめ、初期相談や自立に向けた償還指導対応のポイント等について説明を行いました。

また、近年の貸付相談では精神障害のある方からの貸付相談も多くなっていることから、今年度の研修では、精神障害について正しく理解し、その対応方法を考えることを目的として、沖縄大学の名城健二教授を講師に迎え、講義とグループワークを行いました。

名城先生の講義では、「精神障害の特性理解」と題し、本県の自立支援医療の利用者数が増加傾向にあることや、うつ病のベースにある愛着障害によって人間関係の構築が苦手となること等の

説明がありました。

グループワークでは、母子世帯からの相談で、うつ病と診断された世帯主が再就職するまでの生活費と子どもの小学校への入学にかかる費用の工面が出来ないという実際のケースをもとに事例検討を行いました。



▲精神障害の特性について講義を行う名城教授

参加者からは、「初回面談の重要性を感じた」「うつ病の背景を考えながらアクセスメントすることが大事だと勉強になった」等の感想があり、貸付の判断だけではない総合的な支援の重要性を学ぶ機会となりました。

第9回 福祉機器展2019

県総合福祉センターにおいて7月5日・6日に「第9回福祉機器展2019」が開催され、県内外から61社の出展業者が参加しました。

同時開催で4つの研修会が開催され、一般県民や各種専門職、学生等1029名の方にご来場いただきました。

- 【福祉機器展 来場者の声】
 - ・ 気になっていた福祉用具を見ることができて良かった。職場で活用したい。
 - ・ 思っていた以上にとても便利で、将来使いたいと思う物がたくさんあった。
 - ・ 親の介護が始まり参考になった。
- 【研修会・参加者の声】
 - 【住環境整備と転倒予防】
 - ・ 転倒予防の注意点を学ぶ事ができて良かった。
 - 【高齢者の足と靴について】
 - ・ 歩行と靴の関係についての大切さを改めて確認することができた。
 - 【笑顔引き出すメイクの魔法】
 - ・ マッサージでスキんシップを取ることでコミュニケーションに繋がると感じた。
 - 【家族で考える介護、相続、お金のこと】
 - ・ 親だけでなく自分自身の介護費用も併せて考えていく必要性を強く感じた。



▲会場の様子



▲研修会の様子



お問合せは

沖縄県介護実習・普及センター
TEL:098-882-1484 FAX:098-882-1486

※次年度は2020年7月上旬の開催を予定しております。

赤い羽根共同募金運動がスタートしました。

くじぶんの町を良くするしくみ

運動期間

令和元年

10/1



令和2年

3/31

「赤い羽根」のシンボルで親しまれている共同募金は、寄付者、ボランティアの皆様をはじめ、多くの県民や企業に支えられ、全国では今年で73回目、本県では68回目を迎えました。

共同募金は、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことが出来るよう、さまざまな地域福祉の課題解決に取り組み、役立てるための重要な資金です。

今年も2億1千157万余りの目標が掲げられ、運動が実施されます。本年も県民みなさまのご理解・ご協力をよろしく願います。



「赤い羽根空の第一便」 伝達式を開催

10月1日、共同募金運動のスタートを周知するため、那覇市のパレットくもじ広場で「赤い羽根空の第一便伝達式」行われました。全国一斉に始まる運動の機運を盛り上げるため、全日本空輸(株)の客室乗務員から、厚生労働大臣と中央共同募金会会長の共同募金運動への激励と協力を求めるメッセージが主催者らへ伝達されました。



▲伝達式の様子

県共同募金会の湧川昌秀 会長は「誰もが心豊かに安心 して暮らしていくためには、 一人ひとりが地域福祉の担 い手となり、主体的な活動を 展開していくことが必要で す」と述べ、県民へ運動の協 力を呼びかけました。

セレモニー後には、共同募金運動関係者や募金ボランティアが街頭募金を行い、道行く人々へ募金への協力を呼びかけました。



▲街頭募金の様子

「空の美ら島便伝達式」

同日、宮古島空港では日本トランスオーシャン航空(株)のご協力により、客室乗務員から沖縄知事メッセージと赤い羽根が関係者へ届けられ、募金ボランティアらの皆さんと共同募金運動の始まりをアピールしました。



▲空の美ら島便伝達式の様子

募金の種類について

名称	一般募金(赤い羽根)	歳末たすけあい募金
募金期間	10月1日～3月31日(6ヵ月)	12月1日～12月31日(1ヵ月)
助成年度	集めた募金は、配分委員会などで助成先を審査・決定し、来年度の活動に対して使われます。	集めた募金は、配分委員会であらかじめ決めた基準等に基づき、原則年度内に使われます。
助成事業	①社会福祉協議会 ②社会福祉を目的とする団体・ボランティア団体・福祉施設に。	新しい年を迎える時期に、支援を必要としている人々が安心して暮らす事ができるよう実施。

令和元年度 中央競馬馬主社会福祉財団助成金 助成団体が決定しました。

中央競馬馬主社会福祉財団助成団体一覧表

(単位：円)

No.	法人名	助成事業名	助成額
1	(福)恩陽会	トイレ改修工事	970,000
2	(特非)まじゅんの会	クーラー買い替え事業	150,000
3	(特非)ボンネビル名議	床下浸水予防及び床面改修工事	480,000
4	(福)朝日福祉会	送迎車両購入事業	1,200,000
5	(特非)サザンウィンドウ	空調機設置工事	1,190,000
6	(特非)バリアフリーネットワーク会議	モービーマット購入事業	1,000,000
7	(福)沖縄県身体障害者福祉協会	意思疎通支援事業にかかる車両購入事業	800,000
計			5,790,000

中央競馬馬主社会福祉財団助成金は、日本中央競馬会の馬主さん達が、自分たちの手で目に見える形で社会福祉の発展に貢献し、併せて競馬に対する社会の認識を高めることを目的として競馬の賞金の一部を自主的に拠出したものです。

今年度、県内では、社会福祉法人など7団体に総額579万円が決定しました。これまで総額15億4千537万5千円が県内の団体へ助成され、福祉車両等の購入や施設の建設、増改築及び各種修繕工事など県内社会福祉事業の基盤整備に役立てられています。来年度助成については、来年4月に募集する「民間福祉資金助成要望調査」で仮申請を受け付けますので、県共同募金会のホームページでお知らせします。

現在の災害義援金の募集状況について

中央共同募金会と被災地の都道府県共同募金会では、災害で被災された方々を支援することを目的に義援金を募集しています。

下表のとおり、これまでに発生した災害について義援金を募集しています。

寄付を希望の場合には、沖縄県共同募金会が最寄りの社会福祉協議会へお問い合わせください。

皆様からお寄せいただいた義援金は、被災県へ送金した後、それぞれの県・共同募金会・日本赤十字社支部などで構成される配分委員会において取りまとめられ、配分基準に沿って市町村を通じて被災者に配分されます。



現在募集中の災害義援金一覧

※令和元年11月現在

	義援金名	募集期間
1	令和元年 台風第19号災害義援金	令和元年10月16日～令和2年3月31日まで
2	令和元年 台風第15号・台風第19号・大雨千葉県災害義援金	令和元年9月17日～12月30日まで
3	令和元年 8月佐賀県豪雨災害義援金	令和元年9月2日～令和2年2月28日まで
4	平成30年 北海島胆振東部地震災害義援金	平成30年9月12日～令和2年3月31日まで
5	平成30年 7月豪雨災害義援金(岡山県・愛媛県・広島県)	平成30年7月10日～令和2年6月30日まで
6	平成28年 熊本地震災害義援金	平成28年4月18日～令和2年3月31日まで

お問合せ先

(福)沖縄県共同募金会

☎098-882-4353

メール akaihane@okishakyo.or.jp

社会福祉ライブラリーから

本の紹介



大人になってから発達障害の症状に悩む人が増加しています。ここ10年で「発達障害」の知名度が飛躍的に上がったことで、「もしかして自分も…」と成人になってから気づく人が増えたのが最大の要因と思われます。発達障害の人には、「同時並行作業力が弱い」「段取りが取れない」「ケアレスミスをする」「コミュニケーションが苦手」といった特徴があり、これらの特徴が日々の暮らしを送ることを阻害しています。本書では、そうした症状に悩む人のために、上手に日常生活を過ごす方法を解説しています。

ちよっとしたことでもうまくいく
発達障害の人が上手に暮らすための本

著者：村上 由美 出版社：株式会社翔泳社



【写真左から2番目】株式会社沖縄ファミリーマート代表取締役社長 野崎 真人 様
【写真左から1番目】同社常務取締役 商品本部長 平良 良勝 様
【写真右から2番目】本会 会長 湧川 昌秀
【写真右から1番目】本会 常務理事 嘉陽 孝治

●株式会社沖縄ファミリーマート様
御寄付・御寄贈いただき、誠にありがとうございました。

寄付・寄贈者芳名

(8月1日～8月31日)

※本会への寄付については、税制上の優遇措置が受けられます。詳しくは総務企画部まで

編集後記

心地よい秋の風を感じる今日この頃、みなさんはどんな秋を迎えていますか？食欲？運動欲？睡眠欲？

施設利用料金表

区分	利用料 (円)					
	午前 9時~12時	午前 13時~17時	夜間 18時~21時	昼間 9時~17時	昼夜間 13時~21時	全日 9時~21時
多目的ホール	6,600	13,200	13,200	19,800	26,400	33,000
会議室(小)	1,100	2,200	2,200	3,300	4,400	5,500
会議室(中)	1,420	2,960	2,960	4,400	5,930	7,360
会議室(大)	2,520	5,160	5,160	7,700	10,330	12,860
介護実習室	1,420	2,960	2,960	4,400	5,930	7,360
研修室(中)	1,420	2,960	2,960	4,400	5,930	7,360
研修室(大)	2,520	5,160	5,160	7,700	10,330	12,860
視聴覚室	1,420	2,960	2,960	4,400	5,930	7,360
教室(小)	1,100	2,200	2,200	3,300	4,400	5,500
教室(中)	1,420	2,960	2,960	4,400	5,930	7,360
教室(大)	2,520	5,160	5,160	7,700	10,330	12,860
ボランティア室	1,420	2,960	2,960	4,400	5,930	7,360
結 ば ら ざ	1時間につき2,200円 野外ステージを利用するとき、1時間2,750円					
ロビー展示場	1日につき2,200円					
アルコーブ展示場	1日につき1,100円					

附属設備利用料金表

種 別	品 目	単 位	利 用 料
多目的ホール	演台	1台	300
	司会者卓	1台	150
	花台	1台	100
	ダイナミックマイク(有線)	1台	200
	ワイヤレスマイク(無線)	1台	410
	演出用マイク(有線)	1台	200
	CD、MDプレーヤー、カセットテープ	1台	510
	LD/DVDプレーヤー	1台	2,710
	ビデオテープレコーダー(再生)	1台	2,710
	ビデオテープレコーダー(録画)	1台	1,670
プロジェクター	1台	2,710	
照 明 器 具	サスペンションライト(500W×24台)	1列	460
	サイドスポットライト(500W×12台)	1式	300
	センタースポットライト(1kw×8台)	1式	300
	フォースポットライト(1kw×2台)	1式	100
研修室等			
種 別	品 目	単 位	利 用 料
	ダイナミックマイク	1台	200
	ワイヤレスマイク	1台	410
	CD、MDプレーヤー	1台	410
	カセットテープレコーダー	1台	300
	DVDプレーヤー	1台	1,300
	ビジュアルプレゼンター	1台	1,300
	プロジェクター	1台	1,300
	ワイヤレスアンプ	1台	510
	折りたたみ机	1脚	20
その他	展示パネル	1枚	50
冷房設備利用料金			
区 分	単 位	利 用 料	
多目的ホール	1時間につき	2,080	
会議室(小)	〃	230	
会議室(中)	〃	460	
会議室(大)	〃	710	

備考：教室(小)は、会議室(小)と同じ区分とし、介護実習室、研修室(中)、視聴覚室及び教室(中)は、会議室(中)と、研修室(大)及び教室(大)は、会議室(大)と同じ区分とする。

沖縄県総合福祉センターでは、令和元年十月一日からの消費税率引き上げに伴い、左記表のとおり、利用料金を改定いたします。利用料金改定に関するお問合せは、総合福祉センター管理室まで(☎098-882-1581)

「沖縄県総合福祉センター」利用料金変更のお知らせ

富川盛光さん(宮野湾市在住、70歳)は定年退職後、64歳の時に、市の老人福祉センターで行われている絵画教室に通ったことをきっかけに、洋画を始められたそうです。「振り返ってみると、幼いころから自由に絵を描くことや物を作るのが好きでした」と語る富川さん。

「沖縄は小さな島ですが、描いた石垣の奥には御嶽があり、人々は神や宇宙に祈りをささげた。そんな沖縄の持つ独自の文化や豊かさ、スケールの大きさを想い描きました」

富川さんは石垣や石段、時には自然にある石を描くそうです。そこにある石の存在感を感じ、沖縄が築き上げた独自の文化、その価値に誇り・自信を持ち、今後も描き続けていきたいと語りました。

表紙の絵



作品名 古城
作成者 富川 盛光さん